

令和8年度入学試験問題（前期日程）

## 実 技 検 査

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース・中学校教育コース 教科教育専攻  
美術教育専修

### 注 意 事 項

1. 解答時間は、240分である。
2. 試験開始の合図があるまで問題を見てはいけない。
3. 与えられた材料・用具以外は使用してはならない。

## 問 題

粘土による立体制作

テーマ：「共に生きる」

- 問 1. 与えられたテーマについて、自由な発想で自分が制作する粘土作品の完成予想図を画用紙に鉛筆で描くこと。
- 問 2. 完成予想図を参考にしながら、粘土による立体作品を制作すること。

## 注 意 事 項

1. 与えられた画用紙に描くこと。用紙の向きは自由。
2. 与えられた用具以外は使用しないこと。

令和8年度入学試験問題（前期日程）

## 実 技 検 査

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース・中学校教育コース 教科教育専攻

美術教育専修

### 出 題 の 意 図

教育学部のアドミッションポリシーでは、教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする、「教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていきたい人」「教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」「高等学校での基礎学力を身につけ、思考力、判断力、表現力を持つ人」「沖縄の歴史的・地理的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育活動に携わりたい人」を求めており、その適性の中でも特に図工・美術教育での適性を見るために、実技検査においては「発想力及び造形力」を見ることにしている。

粘土を用いた立体制作は、受験者が素材の特性を理解し、立体的な形態や空間を構成する造形力を確認できる点で有効である。本問題では制作に先立ち、完成予想図を描く工程を加えることで、受験者の発想力・計画性・表現意図の明確さを評価することを狙いとしている。完成予想図の作成は、粘土制作の方向性を明確にするだけでなく、自らの発想を視覚的に整理し、計画的に立体表現へと展開する力を測ることができる。また、最終的な作品との関連性を見ることで、受験者が制作過程でどのように試行錯誤し、最終的な形へとまとめ上げたのかを多面的に評価できる。